

主 題：絶望の中にあつて(2)

聖書箇所：詩篇43篇

昨年5月27日、ある宣教師夫妻がフィリピンで、イスラムの反逆集団であるアブサヤフに捕らえられました。彼らは17年間宣教師として働き、この日は彼らの18回目の結婚記念日でした。彼らはこのような中であつてクリスチャンとしてどのように対処したのでしょうか？376日間彼らは自分たちを捕らえた者たちに仕えたのです。ご主人の方は殺されてしまいますが、彼らの言動は敵に大きなインパクトを与えました。

私たちの内側には常に葛藤があります。神から引き離そうとする力にともすれば感情は翻弄されてしまいます。絶望といえる中であつても、神への確信と希望をもって生きて行けるのでしょうか？この詩篇42,43篇は私たちにそのことを教えています。著者は戦っています。絶望の中でも希望をもとう、その意志をもとうとしています。42:11では、まだ悲しむことがあつたとしても、希望を見出すことができる、わが巖の神だから、と言っています。43:5には同じことばがあり、43:2は42篇と同じ著者の思いが綴られています。それゆえ、この42,43篇は同じ著者だろうと思われまふ。43篇を順に見てゆきましょう。

☆神に対する訴え 1-2節

「私のためにさばいてください」とは、彼自身のさばきではなく、「裁判官として行動する」という意味で、あなたがさばき主となつてください、裁判官として公正にさばき、私を弁護し守ってください、私のために、ということです。あなたは不正の訴えに耳を傾けるのではなく、それが誤りであると証明してください、と言います。彼を取り巻く状況は変わっていません。敵が私をしいたげているのです。神から引き離されているという実感が、なおも私を取り囲んでいます。

「あなたは私の力の神」とは、私の避け所である神、ということです。避け所は要塞、港です。しかし、最も使われるのは神に対してです。私のためにどうかさばいてください、私を助けてくださる神、と呼びかけるのです。「なぜ」は、これに支配されてはいけなふ、神への不平不満になるから、感情に支配されることになるから、と自らに言います。

☆神への期待 3節

神への願ひです。私を導いてくださいと。「あなたの光とまこと」の「光」は、42:9にある「嘆いて歩く」のは暗闇の中ですから、そこを歩いている状況の中で、神のあわれみ、愛を求めています。また、「まこと」は神の真実さ、誠実さです。神が与えてくださった約束に誠実であるように、ということです。それによつて、私は神のみもとに行くことができるのです、と言います。

☆疑いのない確信 4節

私はあなたのみもとに行きます！と。神へ目を向けて行くことによつて、信仰によつて、確信によつて、自らの葛藤に打ち勝つてゆきます。

☆神を待ち望む 5節

希望をもちます。42:5「わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。御顔の救いを。」と絶望から、42:11「わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い、私の神を。」と希望へ、そして、43:5「わがたましいよ。なぜ、おまえは絶望しているのか。御前で思い乱れているのか。神を待ち望め。私はなおも神をほめたたえる。私の救い、私の神を。」と確信へ移つて行きます。これは著者の心の動きです。

絶望の中におかれたとしても、私たちは神を待ち望むべきです。それがこの詩篇から学ぶことです。